



「長崎御島」は、みそ加工用として2017年に長崎県と農研機構が共同で育成した裸麦の品種で、18年から生産が開始され、諫早や五島などで生産拡大を図っています。

「長崎御島」は従来品種「御島裸」と比べ15%ほど短く、倒伏しにくく、収穫期の稈（かん）の折れが少ない品種ですが、多収を狙って肥料を増やすと倒伏で減収する場合があります。

そこで、「長崎御島」の穂数、稈長、倒伏程度、収量の関係について試験を行いました。その結果、穂数が増える

と稈長が長くなり、稈長が90センチを超えると倒伏程度が「多」あるいは「甚」となり減収しました。稈長が80センチを超える

裸麦「長崎御島」

元肥過多で倒伏増え 逆効果となり減収も

と倒伏程度が「中」となりますが、1平方メートルあたりの穂数500〜600本であれば子実重10平方メートルあたり400kg以上を確保できました。

裸麦「長崎御島」の穂数、稈長、倒伏程度、収量

穂数 (本/㎡)	稈長 (cm)	倒伏程度	子実重 (kg/10a)
300~400	78	微	235
400~500	82	中	296
500~600	85	中	436
600~700	88	多	240
700~800	91	甚	211

元肥の施肥量を増やすと稈長は長く、倒伏しやすくなりますので、肥料過多にならないよう注意してください。

(県農林技術開発センター 農産研究部門作物研究室主任 森保祐仁)